

荒子川公園の管理運営状況

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者名	名古屋市みどりの協会・大島造園土木グループ		
主な業務内容	荒子川公園の管理運営業務		
施設の所在地	名古屋市港区品川町二丁目 1 - 1		
評価対象期間	令和3年4月～令和4年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和5年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
管理体制 及び協働	1 管理体制	職員配置 緊急時の体制 人材育成等	○	引き続き、職員が交代で施設安全パトロールを毎日実施している。 新型コロナの影響がある中、サポートクラブと幅広い面で協働活動を行っている。
	2 協働	市民等との協働		
維持・管 理運営等	1 維持管理	園内清掃	○	樹木や花壇もよく手入れされており、老朽化したシュルターの屋根材取替やパークブリッジのタイル舗装補修、遊具の修繕等利用者の安全や利便性を考慮し実施している。その他、多目的広場の整正やデイキャンプ場のかまど・野外卓の取替などきめ細かく維持管理している。
		建物・設備の管理		
		保守・点検・修繕		
		植物管理		
		管理水準の維持		
		関係書類の調製・保管		
	2 運営管理	利用者アンケートの実施	◎	イベントや講習会開催時の他、平常時対面式の魅力アップアンケートによる意見の収集・分析及び近隣学区の方などとの施設運営懇談会の実施により、利用者ニーズを的確に把握し改善を行っており満足度も高い。 また、要望をもとに繁忙期やイベント時に警備員を配置、点字ブロックの敷き直しを実施するなどサービス向上を図っている。
		利用者ニーズの把握と反映		
		利用者サービス向上策		
		接客・接客向上の取組み		
		苦情・要望に対する適切な処理		
		個人情報の適切な管理		
	3 この施設特有の管理	緑の普及・啓発事業への取組み	◎	引き続き、ラベンダー（28種 3,000株）の充実に努めるとともに、整備してきた樹林地での講習会の開催等魅力増進に努めている。 また、見ごろが終わったラベンダー園を活用して、秋に満開のヒマワリを楽しめるよう魅力増進を図っている。 SNSを積極的に活用して、花の開花状況やイベント情報などを常時発信している。
		めざす公園像への取組み		
	4 魅力増進・利用促進	魅力の増進策	◎	
		イベント等の実施		
		講習会等の実施		
		利用者への広報・情報提供の実施		
	5 収納金の処理業務	現金等の取扱い	—	
		関係書類の調製・保管		
自主事業	1 自主事業	事業計画に基づく自主事業の実施	○	喫茶コーナーにおいて、ラベンダーを使ったオリジナルメニューの提供やラベンダーグッズ等を販売しており、利用者へのサービス向上となっている。 また、喫茶の売上が増えたことにより、引き続き収益還元金を生み出した。
		集客対策への効果		
		自主事業の収支及び還元		
		便益施設の管理運営		
収支	1 収支	経費節減策	○	施設内の照明をLED化するとともに、電力会社の見直しを行い経費節減に努めている。
		年間収支		
その他	1 その他	法令・協定の遵守	○	
		事業計画との比較分析		

【総合評価】

コロナの状況に応じた対応が求められる中で様々な感染症対策を行うとともに、イベント、講習会、展示会の縮小、中止の経費をチューリップの球根の購入に充てたりすることによって、環境の改善に繋がっていることは評価できる。
最大の資源であるラベンダーはじめ植物管理において、様々な工夫を行いながら管理がしっかりと行われており、人が近寄りにくかったエリアの樹木管理により、新たな人の流れができたことは評価できる。
施設管理において、点検による早期発見ときめ細やかに修繕を行う等努力されており、来園者に対する利便性、快適性の確保に配慮している。
基本的な方針を持ち、顧客満足度アンケートを活用し、新しい企画を展開しており、新しい利用者が生まれている状況は好ましい。
一方で、イベントという方法以外での集客や幅広い年齢層の利用促進は課題であり、公園の利用促進に向けてSNS等の活用とフォロワーの増加にさらに取り組まねばならない。
講習会と展示会については、現状の評価を行ったうえで、ラベンダー栽培の講習会等新たな企画への入れ替えを積極的に行い、さらなる公園の利用促進を図られたい。

施設の現状

荒子川公園

施設の現状	施設概要							
	荒子川公園は、本格的都市緑化植物園を備えた総合公園として昭和54年度より整備を進めてきた公園です。園内には、ラベンダー園、日本庭園、サンクガーデン、多目的広場等のほか、学校緑化、生垣、公園樹・街路樹、地被植物等の見本園があり、家庭や学校などの緑化の参考となる各種の樹木や植物が植栽されています。 また、荒子川公園の核となる施設として、荒子川公園ガーデンプラザが、市民の緑化意識の啓発を目的に平成5年4月30日に開設されました。館内は、緑に関する相談・各種資料の展示・講習会・研修会などの普及啓発施設として、また、平成9年3月に開設したティールームなどの便益施設として利用されています。							
	市の収支状況(千円)（3年度決算見込み額）							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
	114,645	-	114,645	213	-	114,432	114,645	—
	特記事項							
	指定管理区域を、平成22年度から荒子川公園全域に拡大							
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	講習会受講者数		人	1,011	1,040	652	800	
	緑化相談者数		人	78	146	189	54	
	入館者数		人	282,573	231,512	116,929	187,600	
	特記事項							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費を記載

評価シート（指定期間を通じた評価）

荒子川公園における指定管理者の管理運営実績

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者	名古屋市みどりの協会・大島造園土木グループ
主な業務内容	荒子川公園の管理運営業務
評価対象期間	平成30年4月～令和4年3月

2 管理運営状況（評価結果の推移）

評価項目		評価区分				特記事項
1 管理体制及び協働	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】限られた管理体制の中、職員が交代で施設安全パトロールを毎日実施している。サポートクラブや福祉施設、保育園とともに幅広い面で協働活動を行い、地域との連携・交流を図っている。 【元年度】H30年度に引き続き、職員が交代で施設安全パトロールを毎日実施している。サポートクラブや福祉施設、保育園とともに幅広い面で協働活動を行い、地域との連携・交流を図っている。 【2年度】引き続き、職員が交代で施設安全パトロールを毎日実施している。新型コロナウイルスの影響がある中、サポートクラブと幅広い面で協働活動を行っている。 【3年度】引き続き、職員が交代で施設安全パトロールを毎日実施している。新型コロナウイルスの影響がある中、サポートクラブと幅広い面で協働活動を行っている。	
職員配置	○	○	○	○		
緊急時の体制						
人材育成等						
市民等との協働						
2 維持管理	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】樹木や花壇もよく手入れされており、施設の修繕についても側溝の修繕、ベンチやデイキャンプ場の野外卓板の取替え、古い遊具の更新などを適時行っている。台風時、迅速な応急対応を行うとともに、撤去木をチップ化し、園路に敷きならして再利用を行った。 【元年度】樹木や花壇もよく手入れされており、デイキャンプ場の野外卓板42枚の取替えや塗装、八つ橋・ベンチなど施設の修繕を実施している。その他、樹木の根上がりによる園路の盛り上がりなどを修繕し安全に配慮している。 【2年度】樹木や花壇もよく手入れされており、老朽化した四阿の屋根撤去や階段への手すり設置、遊具の更新・新設等利用者の安全や利便性を考慮し実施している。その他、多目的広場の整正やデイキャンプ場のかまどやベンチの修繕などきめ細かく維持管理している。 【3年度】樹木や花壇もよく手入れされており、老朽化したシェルターの屋根材取替やパークブリッジのタイル舗装補修、遊具の修繕等利用者の安全や利便性を考慮し実施している。その他、多目的広場の整正やデイキャンプ場のかまど・野外卓の取替などきめ細かく維持管理している。	
園内清掃	◎	○	○	○		
建物・設備の管理						
保守・点検・修繕						
植物管理						
管理水準の維持						
関係書類の調製・保管						
3 運営管理	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】イベント時の外、平常時対面式の魅力アップアンケートによる意見の収集・分析及び近隣学区の方などとの施設運営懇談会の実施により、利用者ニーズを把握し改善を行っている。 【元年度】イベントや講習会開催時の他、平常時対面式の魅力アップアンケートによる意見の収集・分析及び近隣学区の方などとの施設運営懇談会の実施により、利用者ニーズを的確に把握し改善を行っており満足度も高い。また、園内に熱中症対策及び災害備蓄用の自動販売機を追加で5台設置しサービス向上を図っている。 【2年度】イベントや講習会開催時の他、平常時対面式の魅力アップアンケートによる意見の収集・分析及び近隣学区の方などとの施設運営懇談会の実施により、利用者ニーズを的確に把握し改善を行っており満足度も高い。また、要望をもとに健康器具や遊具の設置、階段への手すり設置などを設置しサービス向上を図っている。 【3年度】イベントや講習会開催時の他、平常時対面式の魅力アップアンケートによる意見の収集・分析及び近隣学区の方などとの施設運営懇談会の実施により、利用者ニーズを的確に把握し改善を行っており満足度も高い。また、要望をもとに繁忙期やイベント時に警備員を配置、点字ブロックの敷き直しを実施するなどサービス向上を図っている。	
利用者アンケートの実施	○	◎	◎	◎		
利用者ニーズの把握と反映						
利用者サービス向上策						
接客・接客向上の取組み						
苦情・要望に対する適切な処理						
個人情報の適切な管理						

4 この施設特有の管理	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】ラベンダーをさまざまなエリアで楽しんでもらえるよう植栽エリアの拡大を行った。また、長期的に楽しめる品種を植栽し、ラベンダーを核とした公園の魅力増進に努めている。新たに公式SNSを導入して、花の開花状況やイベント情報などを常時発信し利用者数の増加へつなげている。平成30年度入館者282,573人は過去最多となった。(H11～30年度中) 【元年度】ラベンダー見本園をリニューアルするとともに、園路に防草シートを張り直しチップを敷設することで、除草の軽減と景観の保持に努めている。また、見ごろが終わったラベンダー園を活用して、秋に満開のヒマワリを楽しめるよう魅力増進を図っている。SNSを積極的に活用して、花の開花状況やイベント情報などを常時発信している。 【2年度】引き続き、ラベンダー見本園をリニューアルするとともに、栽培方法を工夫し見本園の充実に努めている。また、見ごろが終わったラベンダー園を活用して、秋に満開のヒマワリを楽しめるよう魅力増進を図っている。SNSを積極的に活用して、花の開花状況やイベント情報などを常時発信している。 【3年度】引き続き、ラベンダー（28種 3,000株）の充実に努めるとともに、整備してきた樹林地での講習会の開催等魅力増進に努めている。また、見ごろが終わったラベンダー園を活用して、秋に満開のヒマワリを楽しめるよう魅力増進を図っている。SNSを積極的に活用して、花の開花状況やイベント情報などを常時発信している。
緑の普及・啓発事業への取り組み					
めざす公園像への取り組み					
5 魅力増進・利用促進	◎	◎	◎	◎	
魅力の増進策					
イベント等の実施					
講習会等の実施					
利用者への広報・情報提供の実施					
利用者数の増加					
6 収納金の処理業務	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】本部と現場（駐車場）での金券及び現金の受け渡しについてチェック表を作成するなど、紛失防止のための工夫が見られる。 【元年度】本部と現場（駐車場）での金券及び現金の受け渡しについてチェック表を作成するなど、紛失防止のための工夫がみられる。
現金等の取扱い	○	○	—	—	
関係書類の調製・保管					
7 自主事業	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】喫茶コーナーにおいて、ラベンダーを使った新たなメニューの提供やラベンダーグッズ等を販売しており、利用者へのサービス向上となっている。 【元年度】喫茶コーナーにおいて、ラベンダーを使ったオリジナルメニューの提供やラベンダーグッズ等を販売しており、利用者へのサービス向上となっている。 【2年度】喫茶コーナーにおいて、ラベンダーを使ったオリジナルメニューの提供やラベンダーグッズ等を販売しており、利用者へのサービス向上となっている。また、自動販売機の売上増により、収益を還元した。 【3年度】喫茶コーナーにおいて、ラベンダーを使ったオリジナルメニューの提供やラベンダーグッズ等を販売しており、利用者へのサービス向上となっている。また、喫茶の売上が増えたことにより、引き続き収益還元金を生み出した。
事業計画に基づく自主事業の実施					
集客対策への効果	○	○	○	○	
自主事業の収支及び還元					
便益施設の管理運営					
8 収支	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】事務室と講習室の照明をLEDに替え、省エネに努めている。 【元年度】パークブリッジや園内トイレの照明をLED化し、H30年度に引き続き省エネに努めている。 【2年度】施設内の照明をLED化するとともに、電力会社の見直しを行い経費節減に努めている。 【3年度】施設内の照明をLED化するとともに、電力会社の見直しを行い経費節減に努めている。
経費節減策	○	○	○	○	
年間収支					
9 その他	30年度	元年度	2年度	3年度	
法令・協定の遵守	○	○	○	○	
事業計画との比較分析					
年度ごとの総合評価（所管局のコメント・特記事項等）					
平成30年度	老朽化した施設の改善・改修に努めるとともに、健康増進サポートのための施設を新設したことは評価したい。併せて、健康増進サポート面でのソフト事業（他施設との連携、健康遊具の利用講習）等も進められている。 ケヤキの樹勢改善に向けての対策（植え替え）についても着実にスタートを切っているが、ケヤキのクリニックを行う中で、土壌の改良は早く対応して欲しい。 利用促進については、三大イベントが充実して行われており参加者の増加などにより、入館者数の目標を達成するなどの成果を出したことは評価できる。日常的な利用増進や、サクラやラベンダーなど公園の持つ強みを更に強化する必要がある、利用実態の把握の工夫など改善の余地がある。 自主事業については、収益還元が実現できなかったことは残念であり、今後の改善を期待したい。				

令和元年度	展示会、その他のイベントをかなりの回数開催するなど、利用促進に努めている。また、ケヤキの見本園、各種施設の修繕など施設の維持管理、植物管理を適切に行うことで公園の美しさを維持していることは評価したい。 適切なアンケートの実施等により、来園者ニーズを的確に把握し、ウォーキングコースの充実や自動販売機の設置など来園者の要望に応える改善を行っており、来園者の満足度にも表れる好循環となっていることも評価したい。 今後は、自主サークル等による屋外での軽運動などのアクティビティを誘発させるような利用増進策を講じていくことも必要であると考えている。 自主事業については、2年連続で収益還元が実現できなかったが、さらなる改善により赤字額の縮小、ひいては還元の実施まで実現できることを期待したい。
令和2年度	新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じた対応が求められる中で、様々な感染症対策を行い、利用者の安全確保とサービスの維持に努めながら、講習会・展示会についてある程度の受講者を集めたこと、ラベンダーフェアの中止やガーデンプラザの利用制約を受けながらも、コロナ禍における健康づくり需要に対応する努力やこれまでとは違ったイベントによる新規需要開拓の努力がみられ、入園者数も一定程度以上確保していることは評価したい。 植物管理について、提案にあった正面入り口のケヤキ本来の樹勢回復のための植え替えなど、専門家の意見を聞きつつ様々な工夫を行いながらしっかりと実施されている。また、ボランティア団体のサポート体制も充実していること、2年連続で実現できなかった収益還元が実現できたことも評価したい。 コロナ感染防止のため中心的イベントの「ラベンダーフェア」が中止になってしまったが、代わりになるような企画を用意しておく必要を感じる。アフターコロナを見据えた3大イベントのさらなる充実と3大イベントだけに頼らない小規模な催しなどを通じ、今後とも魅力ある公園づくりを期待したい。 講習会と展示会については、アンケート調査結果でも95%以上が満足しており評価できるが、現状の評価を行ったうえで、新たな企画への入れ替えを積極的に行うとともに、SNS等を活用するなどさらなる緑の普及啓発と公園の利用促進を図られたい。
令和3年度	コロナの状況に応じた対応が求められる中で様々な感染症対策を行うとともに、イベント、講習会、展示会の縮小、中止の経費をチューリップの球根の購入に充てたりすることによって、環境の改善に繋がっていることは評価できる。 最大の資源であるラベンダーはじめ植物管理において、様々な工夫を行いながら管理がしっかりとされており、人が近寄りにくかったエリアの樹木管理により、新たな人の流れができたことは評価できる。 施設管理において、点検による早期発見ときめ細やかに修繕を行う等努力されており、来園者に対する利便性、快適性の確保に配慮している。 基本的な方針を持ち、顧客満足度アンケートを活用し、新しい企画を展開しており、新しい利用者が生まれている状況は好ましい。 一方で、イベントという方法以外での集客や幅広い年齢層の利用促進は課題であり、公園の利用促進に向けてSNS等の活用とフォロワーの増加にさらに取り組まれない。 講習会と展示会については、現状の評価を行ったうえで、ラベンダー栽培の講習会等新たな企画への入れ替えを積極的に行い、さらなる公園の利用促進を図られたい。

3 利用状況等

具体的な取組みや成果等
平成30年度は目標の年間来園者数26万人を達成したが、その後はコロナの影響を大きく受けた。ラベンダーのほか、桜・ひまわり・チューリップなどの多くの花を咲かせて来園者に喜ばれた。 《入園者数》 平成30年度：282,573人 令和元年度：231,512人 令和2年度：116,929人 令和3年度：187,600人 ※ガーデンプラザ来館者数をもとに算出

4 収支状況等

具体的な取組みや成果等
照明のLED化を積極的に進め、経費の削減に努めた。樹木のチップ化など環境保全及びごみの減量に努めた。コロナで実施できなかったイベント経費などは修繕費に充て、適切な維持管理を実施した。

5 利用者の意見や満足度等

利用者の意見や満足度等の内容・推移
指定期間を通じて「公園の清潔さ・美観」「植物の管理」は「大変満足」「満足」が90%台で満足度が高い。アンケート結果を分析し改善に向け対策を講じるとともに、指定期間中に受けた園内管理・講習会への要望に積極的に対応した。

6 総合評価

所管局のコメント・特記事項等

ラベンダー始め樹木や花壇はよく手入れされており、荒子川公園と言えばラベンダーというイメージが地域に根づいている状況にある。

また、施設管理において、点検による早期発見ときめ細やかな修繕・補修が行われており評価できる。

ラベンダーのシーズンオフの秋に「ヒマワリ」を育てて来園者を感動させるなど、3大イベントだけにこだわらない小規模なイベントによる集客の工夫も評価したい。

新型コロナウイルスがまん延して以降は、様々な感染症対策を行い、利用者の安全確保とサービスの維持に努め運営したが、講習会と展示会については、やや内容が固定化している傾向がみられた。